

通貨選択型 Jリート・ファンド (毎月分配型) 円コース

追加型投信／国内／不動産投信 (リート)

受益者の皆さまへ

毎々格別のお引立てに預かり厚くお礼申し上げます。

当ファンドは、わが国の不動産投資信託証券を実質的な主要投資対象とし、安定した収益の確保と信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行います。

当作成対象期間につきましても、これに沿った運用を行いました。ここに、運用経過等をご報告申し上げます。

今後とも一層のご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

作成対象期間 2020年6月19日～2020年12月18日

第114期	決算日：2020年7月20日	
第115期	決算日：2020年8月18日	
第116期	決算日：2020年9月18日	
第117期	決算日：2020年10月19日	
第118期	決算日：2020年11月18日	
第119期	決算日：2020年12月18日	
第119期末 (2020年12月18日)	基準価額	7,093円
	純資産総額	5,572百万円
第114期～ 第119期	騰落率	1.7%
	分配金合計	210円

(注1) 騰落率は分配金再投資基準価額の騰落率を表示しています。
(注2) △ (白三角) はマイナスを意味しています (以下同じ)。

当ファンドは投資信託約款において、運用報告書(全体版)を電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書(全体版)は、下記のホームページにアクセスし、「基準価額一覧」等から当ファンドの名称を選択いただき、ファンドの詳細ページから閲覧、ダウンロードすることができます。また、運用報告書(全体版)は受益者のご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

■運用報告書に関するお問い合わせ先

コールセンター **0120-104-694**

(受付時間：営業日の午前9時から午後5時まで)

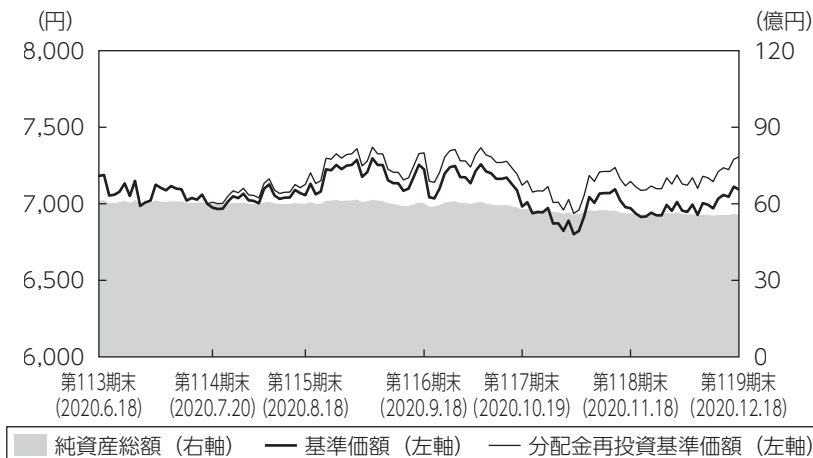
お客さまのお取引内容につきましては、購入された販売会社にお問い合わせください。

アセットマネジメントOne 株式会社

東京都千代田区丸の内1-8-2 <http://www.am-one.co.jp/>

運用経過の説明

基準価額等の推移



第114期首： 7,182円
 第119期末： 7,093円
 (既払分配金210円)
 騰落率： 1.7%
 (分配金再投資ベース)

- (注1) 分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものではありません。
- (注2) 分配金を再投資するかどうかについてはお客さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、お客さまの損益の状況を示すものではありません。
- (注3) 分配金再投資基準価額は、期首の基準価額に合わせて指数化しています。
- (注4) 当ファンドはベンチマークを定めておりません。

基準価額の主な変動要因

新型コロナウイルスの影響による景気の落ち込みからの回復がみられる中で、各リートの決算などから市況悪化に対する過度の悲観論が後退したことや、ワクチン実用化への期待が高まったことなどからJリート市場が上昇し、基準価額（分配金再投資ベース）は上昇しました。

1 万口当たりの費用明細

項目	第114期～第119期		項目の概要
	(2020年6月19日 ～2020年12月18日)		
	金額	比率	
(a) 信託報酬	30円	0.429%	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 期中の平均基準価額は7,066円です。 投信会社分は、信託財産の運用、運用報告書等各种書類の作成、基準価額の算出等の対価 販売会社分は、購入後の情報提供、交付運用報告書等各种書類の送付、口座内でのファンドの管理等の対価 受託会社分は、運用財産の保管・管理、投信会社からの運用指図の実行等の対価
(投信会社)	(6)	(0.082)	
(販売会社)	(23)	(0.331)	
(受託会社)	(1)	(0.016)	
(b) その他費用 (監査費用)	0 (0)	0.001 (0.001)	(b) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査にかかる費用
合計	30	0.430	

(注1) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は追加・解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。なお、その他費用は、このファンドが組入れているマザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。

(注2) 金額欄は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

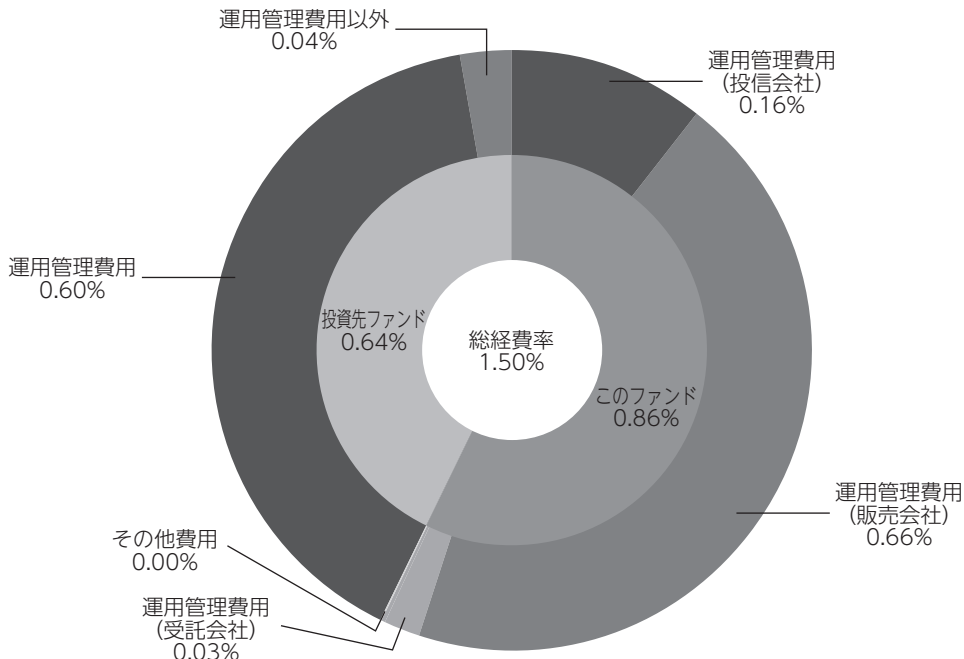
(注3) 比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

(注4) 各項目の費用は、このファンドが組入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）が支払った費用を含みません。

(参考情報)

◆総経費率

当作成期中の運用・管理にかかった費用の総額を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.50%です。



総経費率 (①+②+③)	1.50%
①このファンドの費用の比率	0.86%
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.60%
③投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	0.04%

(注1) ①の費用は、1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注2) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注3) 各比率は、年率換算した値です。

(注4) 投資先ファンドとは、このファンドが組入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）です。

(注5) ①の費用は、マザーファンドが支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

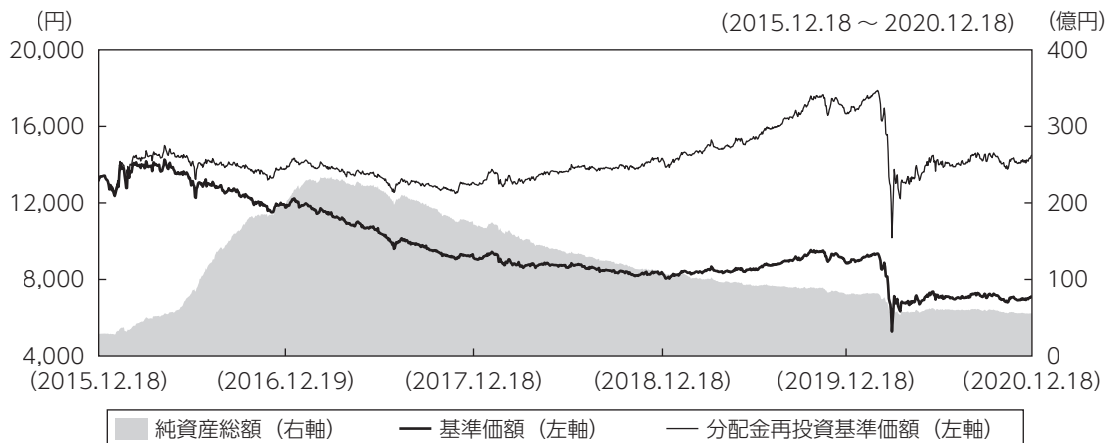
(注6) ①の費用と②③の費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注7) 投資先ファンドは、源泉徴収税を含みません。

(注8) ②の費用は、ミズホ・ジャパン・リート・ファンドのサブファンド（米ドルコース、豪ドルコースおよびブラジルリアルコース）の為替管理報酬を含みます。

(注9) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率と異なります。

最近5年間の基準価額等の推移



(注1) 分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

(注2) 分配金を再投資するかどうかについてはお客さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、お客さまの損益の状況を示すものではありません。

(注3) 分配金再投資基準価額は、2015年12月18日の基準価額に合わせて指数化しています。

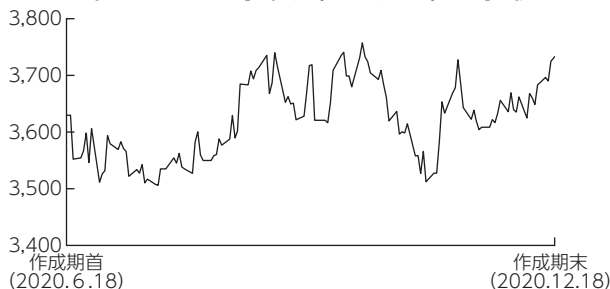
	2015年12月18日 期首	2016年12月19日 決算日	2017年12月18日 決算日	2018年12月18日 決算日	2019年12月18日 決算日	2020年12月18日 決算日
基準価額 (分配落) (円)	13,171	11,758	9,128	8,320	8,853	7,093
期間分配金合計 (税引前) (円)	—	2,040	2,040	1,615	780	600
分配金再投資基準価額の騰落率 (%)	—	4.6	△5.3	9.8	16.4	△13.1
純資産総額 (百万円)	2,860	19,747	17,124	11,078	8,044	5,572

(注) 当ファンドのコンセプトに適した指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を定めておりません。

投資環境

● Jリート市況

<東証REIT指数（配当込み）の推移>



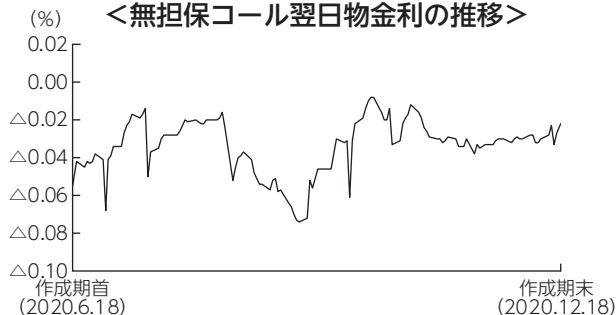
(注1) 値は前営業日のものを採用しております。

(注2) 東証REIT指数（配当込み）は、株式会社東京証券取引所（㈱東京証券取引所）の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利は、㈱東京証券取引所が有しています。

Jリート市場は、東証REIT指数（配当込み）でみると2.9%上昇しました。作成期首は、5月下旬に緊急事態解除宣言等により大幅に上昇した反動や、オフィス市況の悪化などが嫌気され下落しました。その後は、各REITの決算やガイダンスの公表が過度な悲観論の後退につながり上昇基調となりました。10月以降は、大型公募増資の公表をきっかけに需給悪化懸念が台頭し値動きの荒い展開となり、大幅に下落する場面があったものの底堅く推移し作成期末を迎えました。

● 短期金融資産市況

<無担保コール翌日物金利の推移>



無担保コール翌日物金利は当作成期間中マイナスの水準で推移しました。日本銀行は、「長短金利操作付き量的・質的金融緩和」を継続しました。日本銀行当座預金の残高の一部に△0.1%のマイナス金利を適用すること等を含む当該政策が継続された結果、無担保コール翌日物金利はマイナスの水準で推移しました。

ポートフォリオについて

●当ファンド

円建ての外国投資信託「ミズホ・ジャパン・リート・ファンド（円クラス）」受益証券の組入比率は、原則として高位を維持し、「MHAM短期金融資産マザーファンド」受益証券への投資も行いました。

●ミズホ・ジャパン・リート・ファンド（円クラス）

当作成期間中の運用については、安定した分配原資の獲得に留意したポートフォリオの構築を目指して運用を行いました。具体的には投資口価格の相対的な割安感などから「GLP投資法人」や「三井不動産ロジスティクスパーク投資法人」などを追加購入しました。一方で、相対的に分配金の伸び悩みなどが懸念される「アドバンス・レジデンス投資法人」や「日本プライムリアルティ投資法人」などの一部売却を行いました。

【組入上位10銘柄】

2020年12月18日現在

順位	銘柄	比率
1	日本ビルファンド投資法人	7.4%
2	ジャパンリアルエステイト投資法人	6.3%
3	GLP投資法人	5.8%
4	日本プロロジスリート投資法人	5.0%
5	日本リテールファンド投資法人	4.1%
6	野村不動産マスターファンド投資法人	4.0%
7	オリックス不動産投資法人	4.0%
8	ケネディクス・オフィス投資法人	3.2%
9	アクティビア・プロパティーズ投資法人	3.1%
10	ユナイテッド・アーバン投資法人	3.1%

(注1) ミズホ・ジャパン・リート・ファンドの不動産投資証券合計に対する投資割合。

(注2) 比率は前営業日ベース。

●MHAM短期金融資産マザーファンド

当作成期間も残存期間が1年以内の短期公社債を中心に組み入れました。このような運用を行った結果、基準価額は概ね横ばいとなりました。日本銀行の金融緩和政策により、当ファンドの主な投資対象である短期公社債の利回りが概ねゼロ%からマイナスの水準で推移したことが要因となります。

【組入上位5銘柄】

2020年12月18日現在

順位	銘柄	償還日	比率
1	23年度6回 大阪市公募公債	2021/9/16	15.4%
2	22年度8回 福岡県公募公債	2020/12/24	14.1%
3	1回 政保地方公共団体金融機構債券 8年	2021/9/24	11.3%
4	139回 高速道路機構債	2021/7/30	8.5%
5	34回 住宅金融支援機構財形	2021/6/28	8.5%

(注) 比率は、「MHAM短期金融資産マザーファンド」の純資産総額に対する投資割合。

分配金

当作成期の収益分配金は、安定した収益分配を継続的に行うことを目指し、配当等収益の水準、基準価額の水準および市況動向等を勘案して、下記のとおりといたしました。なお、収益分配に充てなかった収益については、運用の基本方針に基づいて運用を行います。

分配原資の内訳（1万口当たり）

項目	第114期	第115期	第116期	第117期	第118期	第119期
	2020年6月19日 ~2020年7月20日	2020年7月21日 ~2020年8月18日	2020年8月19日 ~2020年9月18日	2020年9月19日 ~2020年10月19日	2020年10月20日 ~2020年11月18日	2020年11月19日 ~2020年12月18日
当期分配金（税引前）	35円	35円	35円	35円	35円	35円
対基準価額比率	0.50%	0.49%	0.48%	0.50%	0.50%	0.49%
当期の収益	35円	35円	35円	35円	35円	35円
当期の収益以外	-円	-円	-円	-円	-円	-円
翌期繰越分配対象額	2,305円	2,310円	2,316円	2,317円	2,318円	2,323円

(注1) 「当期の収益」および「当期の収益以外」は、小数点以下切捨てで算出しているためこれらを合計した額と「当期分配金（税引前）」の額が一致しない場合があります。

(注2) 当期分配金の「対基準価額比率」は「当期分配金（税引前）」の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。また、小数点第3位を四捨五入しています。

(注3) 「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後・繰越欠損補填後の売買益（含、評価益）」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「分配準備積立金」および「収益調整金」から分配に充当した金額です。

今後の運用方針

●当ファンド

引き続き、円建ての外国投資信託「ミズホ・ジャパン・リート・ファンド（円クラス）」受益証券の組入比率を、原則として高位に維持し、安定した収益の確保と信託財産の中長期的な成長を目指します。また、「MHAM短期金融資産マザーファンド」受益証券への投資も行います。

●ミズホ・ジャパン・リート・ファンド（円クラス）

Jリート市場は、新型コロナウイルス関連の報道などに一喜一憂し、目先値動きの荒い展開が続くと想定します。各種経済指標等の悪化懸念が上値を抑える可能性が残るものの、ワクチン開発など前向きな動きが下値を支え则认为します。今後は、各種の政策に対する期待などが支えとなり、徐々に下値を切り上げる展開を想定します。引き続き分散投資を基本に、保有資産の質や運用能力の調査・分析をもとに安定した分配原資獲得を考慮したポートフォリオの構築を目指します。

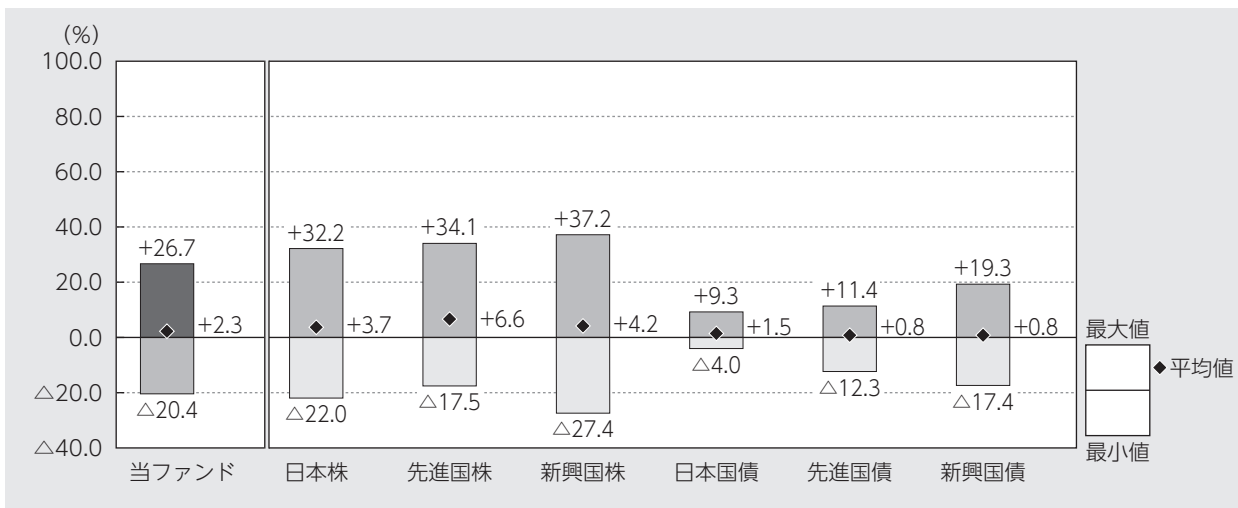
●MHAM短期金融資産マザーファンド

引き続き無担保コール翌日物金利はマイナスの水準で推移する则认为します。日銀は新型コロナウイルスによる景気落ち込みに対処するため、緩和的な金融政策を継続していくと予想しています。そのため、今後も公社債を中心に投資を行い、安定的な運用を目指していきます。

当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／国内／不動産投信（リート）	
信託期間	2011年1月6日から2025年12月18日までです。	
運用方針	わが国の不動産投資信託証券を実質的な主要投資対象とし、安定した収益の確保と信託財産の中長期的な成長を目指します。	
主要投資対象	通貨選択型Jリート・ファンド（毎月分配型）円コース	円建ての外国投資信託である「ミズホ・ジャパン・リート・ファンド（円クラス）」受益証券（外国投資信託（円クラス）ともいいます。）および円建ての国内籍の投資信託である「MHAM短期金融資産マザーファンド」受益証券を主要投資対象とします。
	ミズホ・ジャパン・リート・ファンド（円クラス）	主として、日本の金融商品取引所および金融商品取引所に準ずる市場に上場（上場予定を含みます。）している不動産投資信託証券に分散投資を行います。
	MHAM短期金融資産マザーファンド	わが国の短期公社債および短期金融商品を主要投資対象とします。
運用方法	外国投資信託（円クラス）への投資を中心にを行い、投資対象ファンドの合計比率は、高位を維持することを基本とします。 コマーシャル・ペーパー等の短期有価証券ならびに短期金融商品等に直接投資する場合があります。 為替取引は行いません。	
分配方針	第3期以降の毎期（原則として毎月18日）、原則として経費控除後の繰越分を含めた配当等収益および売買益（評価益を含みます。）等の全額を分配対象額の範囲とし、分配金額は、原則として安定した収益分配を継続的に行うことを目指し、配当等収益の水準、基準価額の水準および市況動向等を勘案し、委託会社が決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には、分配を行わないことがあります。収益分配に充てなかった利益については、運用の基本方針に基づいて運用を行います。	

代表的な資産クラスとの騰落率の比較



2015年12月～2020年11月

(注1) すべての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注2) 上記期間の各月末における直近1年間の騰落率の平均値・最大値・最小値を、ファンドおよび代表的な資産クラスについて表示し、ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したものです。なお、上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

(注3) 当ファンドの騰落率は、税引前の分配金を再投資したものと計算しています。

*各資産クラスの指数

日本株…東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)

先進国株…MSCIコクサイ・インデックス (配当込み、円ベース)

新興国株…MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)

日本国債…NOMURA-BPI国債

先進国債…FTSE世界国債インデックス (除く日本、円ベース)

新興国債…JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバースィファイド (円ベース)

(注) 海外の指数は為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

※各指数については後掲の「代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について」をご参照ください。

当ファンドのデータ

当ファンドの組入資産の内容（2020年12月18日現在）

◆組入ファンド等

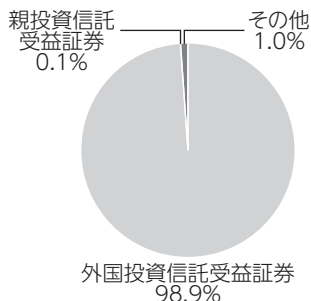
（組入ファンド数：2ファンド）

	第119期末
	2020年12月18日
ミズホ・ジャパン・リート・ファンド（円クラス）	98.9%
MHAM短期金融資産マザーファンド	0.1
その他	1.0

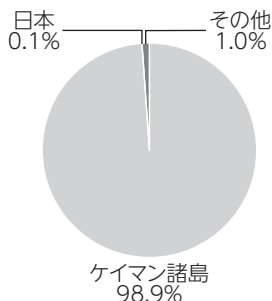
（注1）比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

（注2）現金等はその他として表示しています。なお、その他は未払金等の発生によりマイナスになることがあります。

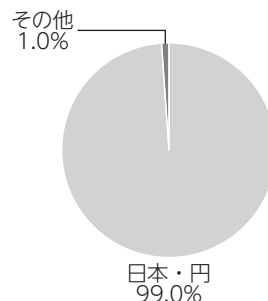
◆資産別配分



◆国別配分



◆通貨別配分



（注1）比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

（注2）現金等はその他として表示しています。なお、その他は未払金等の発生によりマイナスになることがあります。

（注3）国別配分につきましては発行国（地域）で表示しております。

純資産等

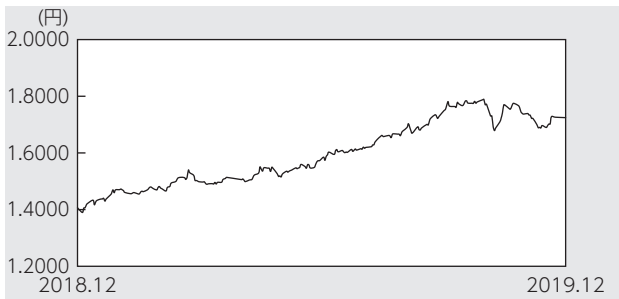
項目	第114期末	第115期末	第116期末	第117期末	第118期末	第119期末
	2020年7月20日	2020年8月18日	2020年9月18日	2020年10月19日	2020年11月18日	2020年12月18日
純資産総額	5,990,327,977円	5,999,568,842円	6,027,961,778円	5,777,080,794円	5,621,011,921円	5,572,791,100円
受益権総口数	8,588,846,555口	8,503,133,712口	8,343,501,103口	8,274,717,573口	8,063,182,251口	7,856,394,581口
1万口当たり基準価額	6,975円	7,056円	7,225円	6,982円	6,971円	7,093円

（注）当作成期間（第114期～第119期）中における追加設定元本額は474,756,369円、同解約元本額は1,122,104,043円です。

組入ファンドの概要

[Mizuho・Japan・REIT・Fund (円クラス)] (計算期間 2019年1月1日～2019年12月31日)

◆基準価額の推移



◆組入上位10銘柄

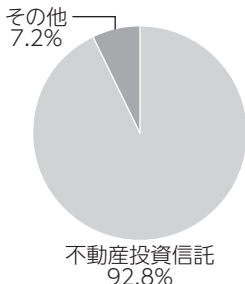
(組入銘柄数：49銘柄)

順位	銘柄	比率
1	日本ビルファンド投資法人	6.6%
2	ジャパンリアルエステイト投資法人	6.5%
3	オリックス不動産投資法人	5.3%
4	アドバンス・レジデンス投資法人	4.2%
5	野村不動産マスターファンド投資法人	3.6%
6	日本リテールファンド投資法人	3.5%
7	ケネディクス・オフィス投資法人	3.2%
8	アクティビア・プロパティーズ投資法人	3.2%
9	森ヒルズリート投資法人	3.0%
10	日本プロロジスリート投資法人	2.8%

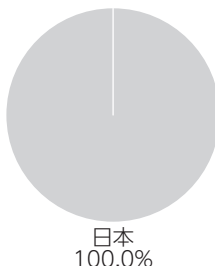
◆1万口当たりの費用明細

費用明細については開示されていないため、掲載しておりません。

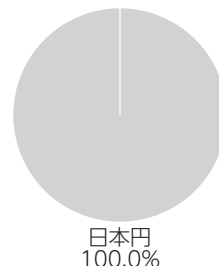
◆資産別配分



◆国別配分



◆通貨別配分



(注1) 基準価額の推移は Mizuho・Japan・REIT・Fund (円クラス) の計算期間のもので、また、分配金を再投資したものとしてアセットマネジメントOneが作成したものです。

(注2) 組入上位10銘柄、資産別配分、国別配分、通貨別配分については、Mizuho・Japan・REIT・Fundの決算日現在の状況を表示しております。

(注3) 組入上位10銘柄、資産別配分、国別配分、通貨別配分は、当ファンドを含む複数のクラスを合算した「Mizuho・Japan・REIT・Fund」の内容になります。

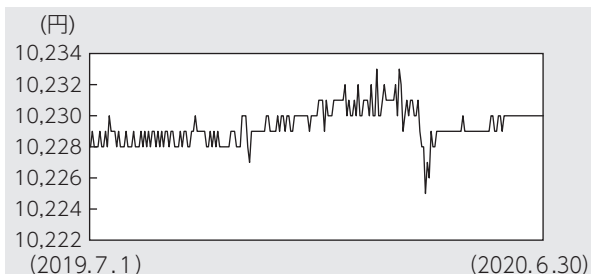
(注4) 組入上位10銘柄、資産別配分、通貨別配分の比率は Mizuho・Japan・REIT・Fundの純資産総額に対する割合です。なお、国別配分については組入有価証券評価額合計に対する割合です。

(注5) 現金等はその他として表示しています。なお、その他は、未払金等の発生によりマイナスになることがあります。

(注6) 組入全銘柄や費用の総額に関する詳細な情報等については、運用報告書(全体版)に記載されています。

【MHAM短期金融資産マザーファンド】（計算期間 2019年7月2日～2020年6月30日）

◆基準価額の推移



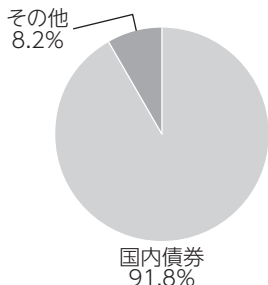
◆組入上位10銘柄

銘柄名	通貨	比率
6 9 1回 東京都公募公債	日本・円	14.2%
2 2年度1回 福井県公募公債	日本・円	12.5
1 7 8回 神奈川県公募公債	日本・円	8.8
2 2年度8回 福岡県公募公債	日本・円	8.5
3 4 1回 大阪府公募公債	日本・円	7.9
2 2年度11回 静岡県公募公債	日本・円	7.1
2 2年度5回 大阪市公募公債	日本・円	6.4
2 2年度6回 千葉県公募公債	日本・円	5.7
6 8 8回 東京都公募公債	日本・円	5.7
3 1 4回 利附信金中金債（5年）	日本・円	5.7
組入銘柄数	12銘柄	

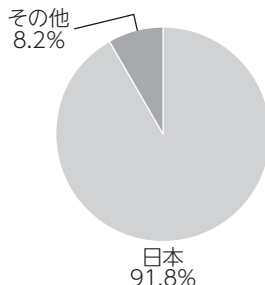
◆1万口当たりの費用明細

計算期間中に発生した費用はありません。

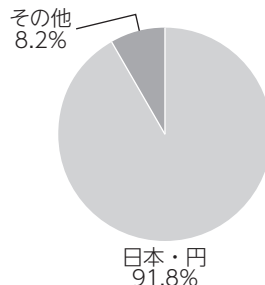
◆資産別配分



◆国別配分



◆通貨別配分



(注1) 基準価額の推移、1万口当たりの費用明細は組入ファンドの直近の計算期間のもので。

(注2) 組入上位銘柄、資産別配分・国別配分・通貨別配分のデータは組入ファンドの直近の決算日現在のものです。

(注3) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注4) 現金等はその他として表示しています。なお、その他は未払金等の発生によりマイナスになることがあります。

(注5) 計算期間中の運用経過や組入全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書（全体版）に記載されています。

<代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について>

- 「東証株価指数（TOPIX）」は、東京証券取引所第一部に上場されているすべての株式の時価総額を指数化したものです。同指数は、株式会社東京証券取引所（㈱東京証券取引所）の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利は、(株)東京証券取引所が有しています。
- 「MSCIコクサイ・インデックス」は、MSCI Inc. が開発した株価指数で、日本を除く世界の主要先進国の株価指数を、各国の株式時価総額をベースに合成したものです。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc. に帰属します。また、MSCI Inc. は同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。
- 「MSCIエマージング・マーケット・インデックス」は、MSCI Inc. が開発した株価指数で、新興国の株価指数を、各国の株式時価総額をベースに合成したものです。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc. に帰属します。また、MSCI Inc. は同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。
- 「NOMURA-BPI国債」は、野村證券株式会社が国内で発行された公募利付国債の市場全体の動向を表すために開発した投資収益指数です。同指数の知的財産権その他一切の権利は野村證券株式会社に帰属します。なお、野村證券株式会社は、同指数の正確性、完全性、信頼性、有用性を保証するものではなく、ファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。
- 「FTSE世界国債インデックス(除く日本)」は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。同指数はFTSE Fixed Income LLCの知的財産であり、指数に関するすべての権利はFTSE Fixed Income LLCが有しています。
- 「JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバーシファイド」は、J. P. モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーが公表している新興国の現地通貨建ての国債で構成されている時価総額加重平均指数です。同指数に関する著作権等の知的財産その他一切の権利はJ. P. モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーに帰属します。また、同社は同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

